

翔ぶ少女

原田マハ

あけましておめでとうございます。今年もみなさんが健康で楽しく過ごせる1年になりますように。昨年のうれしいニュースといえば、オリックス・バファローズの25年ぶりのリーグ優勝ではないでしょうか。12球団で最も優勝から遠ざかっていた彼らの奮闘ぶりに心を動かされた人もたくさんいるはず！前回の優勝も印象深いものでした。1995年の阪神・淡路大震災の翌年、「がんばろう神戸」を合言葉にチーム一丸となったオリックス。リーグ優勝、日本シリーズでも巨人を破って日本一に輝きました。きっと神戸のみならず、たくさんの人が元気をもらえたのではないかと思います。今回は日本シリーズ優勝は叶いませんでしたが、今年こそは、と期待です。

1995年、神戸市長田区。小学1年生の丹華が夢から覚めたとき、地震は襲ってきました。兄の逸輝と妹の燦空は無事だったけれど、両親は1階で押しつぶされてしまいました。目の前のお母さんを助けられない、でも火の手は容赦なく迫ってくる。通りかかったゼロ先生こと佐元良是朗医師に助けられて、幼い3人は避難所生活を送ることに。1ページ目から話に引き込まれます。それは神戸弁の優しい語り口のせいかもしれません。「ええにおいや。あまくて、やさしい、やわらかあなにおいや。」神戸の街にたくさんあるパン屋さんの朝。いつもならいい匂いで起こされる、しあわせな朝。日常をいとも簡単に奪っていく災害。描写がとてモリアルで、読んでただけで泣きそうになります。もし今地震が起きたら、火災が起きたら、家族を置いて1人で逃げなければならなくなったとしたら...そんなときどうするべきか、答えは出そうにありません。街の復興がすすんでも、やり直そう、がんばろう、という気持ちにはなかなかない人もたくさんいたでしょう。「心のケア」が広まり始めていたとはいえ、すべての人にそれが届く状況ではなかったし、奔走されていた医師や消防隊員たちも被災者であったことは忘れてはならないことだと思います。目の前の人を助けられなかった、というのは誰であっても傷つくこと。当時の記憶は日常生活を送る中で薄れてゆくこともあるし、忘れなければつらくて生きていけないこともあります。そのとき何が起きて、何に気をつけなければならないのか、といった具体的なことは知っておいたほうがいいのかもかもしれません。松蔭の図書館には『阪神・淡路大震災と私たち』という冊子があります。当時の学校の対応、在校生や教職員の手記がまとめられています。ひとりひとりの経験を読むことで、想像できる幅が広がる気がしました。学校に通って、友達に会って、ご飯を食べて、という普通のことがちょっと奇跡のように感じられます。コロナによってできないこともありますが、それでも毎日を大事にしなきゃな、と改めて思いました。

原田マハ

1962年東京都生まれ。関西学院大学文学部日本文学科、早稲田大学第二文学部美術史科卒業。アートコンサルティング、キュレーターを経て、2005年『カフーを待ちわびて』で第1回日本ラブストーリー大賞を受賞し、翌年作家デビュー。2012年『楽園のカンヴァス』で第25回山本周五郎賞、2017年『リーチ先生』で第36回新田次郎文学賞を受賞。そのほか、『ジヴェルニエの食卓』『本日は、お日柄もよく』『旅屋おかえり』『キネマの神様』など。